

2009年11月4日(水)

## 広島国際大学 心理学部コミュニケーション学科 公開講座 「中四国地域・特に広島における 経済の動向について考える」

中四国の地域経済研究の日本の第一人者である櫛本功（とちもと いさお）氏が長年蓄積した詳細なデータを駆使して、第三次産業の中でも特に狭義のサービス業と卸売小売業で占めている広島地域の現状を分析し、広島地域のサービス業はどうあるべきかを、初心者にも分かりやすく解説します。

なお、日程につきましては以下のとおりです。  
皆様の参加を心よりお待ちしております。

- ◎ 日時： 2009年11月14日(土) 14:00～16:30【開場13:30】
- ◎ 場所： 広島国際大学 広島キャンパス（国際教育センター）2階 200号室  
（〒730-0016 広島市中区鞆町1-5）
- ◎ 講演者： 櫛本 功 理事長（(社)広島地方総合研究センター）
- ◎ テーマ： 「広島地域におけるサービス業は今後どのように変貌するか」
- ◎ 演題： 「広島地域のサービス業の現状と将来的方向―道州制の観点から」
- ◎ 対象者： 企業関係者・キャリア教育関係者・学生・一般【定員：200名】
- ◎ 参加費： 無料（事前申し込み不要）

添付資料：開催案内

以上

この件に関するお問い合わせ先

広島国際大学 心理学部事務室 までお願いいたします。

TEL：0823-70-4851

上記リリースに関する資料は <http://www.hirokoku-u.ac.jp/> に UP されております。

広島国際大学 心理科学部 コミュニケーション学科 公開講座  
「中四国地域、特に広島における経済の動向について考える」

### 開催のご案内

拝啓 皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。前回、10月の公開講座では、『それいけ、ズッコケ三人組』（ポプラ社）の作者として名高い、児童文学者の那須正幹先生をお招きして、子供たちのコミュニケーションについての問題を考えました。

今回は、中四国地域経済研究の第一人者である櫛本 功（とちもと いさお）先生をお招きすることになりました（詳しくは、講師紹介ページをご覧ください）。下記の予定で、講演会を開催いたします。お誘い合わせの上、ご参加ください。

- 講座名 公開講座「中四国地域、特に広島における経済の動向について考える」  
テーマ 「広島地域におけるサービス業は今後どのように変貌するか」  
主催 広島国際大学心理科学部 コミュニケーション学科

#### ○実施要領

1. 日時： 平成 21 年 11 月 14 日（土曜日） 14:00～16:30 開場 13:30
2. 場所： 国際教育センター 2 階 200 号教室（広島国際大学広島キャンパス）



〒730-0016 広島市中区幟町 1-5 広島駅から徒歩 10 分  
※会場には、駐車場はありません

#### 3. プログラム

- (1) 14:00～14:10 主催者挨拶
  - (2) 14:10～15:40 講演(90分 その後10分の休憩)  
演題：「広島地域のサービス業の現状と将来的方向―道州制の観点から」  
講師： 櫛本 功(平成8年 中国文化賞受賞)
  - (3) 15:50～16:20 質疑応答 自由討議
  - (4) 16:20～16:30 閉会の辞
4. 参加対象者 企業関係者、キャリア教育関係者、学生、一般
  5. 参加費 無料
  6. お問い合わせ先

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台 555-36  
広島国際大学 心理科学部事務室 電話 0823-70-4851  
ホームページ <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>

## 櫛本 功氏 講演内容

ひとびとの生活には、食料や自動車など物の生産も必要であるが、医療や教育、娯楽や情報などのサービスも必要である。戦後 60 年、わが国も物質的に豊かになり、心の豊かさを求めてより多くの、そしてより質の高いサービスが要請されるようになった。けれども、サービスも質の高いサービス、特に都市型サービスともなると、それを提供する地域は限られる。わが国でもっとも豊かなのは東京であるが、それは東京が質の高いサービスを全国に供給し、その対価として全国からお金を集めるからである。

広島市も、東京ほどではないが、それでもかなり質の高いサービスを広島県や中四国に提供して、その対価を頂き、そのお陰で広島市民は質の高い雇用と豊かな生活を維持している。広島市にはマツダや三菱重工など、製造業の大企業もあるが、しかし広島市内総生産（GDP）のうち、製造業が占める割合は 12.8%と、1割ちょっとに下落している。しかもその後、金融危機による世界的大不況、そして輸出の激減に直面し、広島市の製造業は大きく縮小した。現在の広島市はもっぱら第3次産業で稼いでおり、その中でも特に狭義のサービス業と卸売小売業が稼ぎ頭である。もちろん、製造業あつてのサービス業や卸売小売業という側面もあるから、製造業の重要性を軽視してはならないが、わが国も工業製品輸外型からの脱却が要請されている中であつて、広島市はさらに質の高いサービスを中四国に提供することが求められる。

本講演において、中四国の地域経済研究の日本の第一人者である 櫛本 功氏が長年蓄積した詳細なデータを駆使して、広島地域のサービス業の現状を分析し、広島地域のサービス業はどうあるべきかを、初心者にも分かりやすく解説する。

## 櫛本 功氏 略歴

- 1933年 広島市に生まれる
- 1956年 広島大学 政経学部 政経学科卒業
- 1959年 神戸大学 大学院 経済学研究科博士課程退学
- 1977年 広島大学 経済学部教授
- 1991年 経済学博士
- 1995年 (社)中国地方総合研究センター理事長 (現在に至る)
- 1996年 広島大学 定年退官
- 1996年 広島市立大学国際学部教授
- 1996年 中国新聞 第53回 中国文化賞受賞
- 2000年 広島市立大学 学長補佐
- 2003年 広島市立大学 定年退職

社会活動 国土交通省中国圏地域地方計画学識者会議座長  
広島高速道路公社料金問題調査会会長  
(財)中国電力技術研究財団理事 (財)マツダ財団理事

著書 『支店経済を考える』政治経済セミナー社 1961年  
『道州制 地域経済が変わる——中国州から考える』第一法規 2008年  
その他多数